

2010.12.16「ODA 調査会より無事帰国しました」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

今日は 12 月 16 日です。12 月 7 日から昨日まで、参議院の ODA 調査会のメンバーの一員としてベトナム、ラオス、カンボジアに ODA の視察に行って参りました。そのため、しばらくビデオレターの更新が出来なかったのですが、今日はその事も含めて話をさせていただきます。

まず、ODA の視察で感じたことは、日本の ODA によってこれらの国々の社会資本の整備が非常に進んできたということです。特にベトナムは、日の出の勢いで今後のインドシナ地域の経済発展の牽引役になっていくと思います。一方で、ラオスやカンボジアはベトナムより随分人口も少なく小さな国ですが、この二国は、農業国としてのポテンシャルが非常に高い国です。ここに立派な灌漑施設をすれば、間違い無く世界の穀倉地帯として大きく発展出来るのではないかと思います。今回の視察では、日本の ODA が非常にこの地域で役に立っており、アジアでは ODA が活かされているということが非常に印象的でありました。

それと比べて、二年前に ODA の視察に訪れたアフリカでは、ODA そのものが非常に無力だと感じたものです。白人がこの地域で奴隷社会をつくってしまったために、果たして国家というものがこの地域で成り立つのかと考えてしまうくらいであり、ODA が無力であると感じました。

そんな中で、出張先からインターネット等で国内のニュースを見て驚きました。そこで、国会が終わってから突然、民主党の中で小沢氏を国会に招致して、政治倫理審査委員会に出席を要求するのだという事が議論になり始め、岡田幹事長に一任をして小沢さんと呼ぼうと言うことになっているそうです。国会が終わってから、なぜこのような議論になっているのでしょうか。我々が証人喚問も含めて国会に小沢氏を出すように言った時には全く議論をせず、国会が閉まって野党が国会でものを言えなくなってから、今度は民主党の中でもめているのです。その裏には、最近の世論調査で菅政権の支持率が低下しており、支持率をもう一度浮上させるために前の代表選挙で小沢さんを叩いた結果、菅さんの人気が上がったからもう一度同じ事をやろうと、浅はかな算段が透いて見えるわけであります。海外からそのニュースを見て、この方々は本当に何の定見も無ければ、自分達の利益の事しか考えておらず、本当に情けなく感じたわけです。

いずれに致しましても、おそらくこの状態では民主党内閣は、そう長くは持たないでしょう。この内閣は、国民から愛想を尽かされて、もう終わりという状況でしょう。年末、そして年明けにも、何か大きな事が起きそうな気がします。そのためにも、我々自民党はその時に備えてしっかりと受け皿をつくらなければならないと、強く感じました。そのことを含めて、私がいつも言っているような戦後政治そのものを見つめ直していくことがこれからも必要になっ

てくると思います。

また皆様方に報告させて頂きますが、まず無事帰って参りましたことを報告
させて頂きまして、またお話させて頂きます。ありがとうございました。